



国府台女子学院 小学部だより

今年の修学旅行

6年生が、平和の尊さを実感するとともに沖縄の自然や文化に触れることを目的に、3泊4日の日程で、修学旅行に行ってきました。これまでの修学旅行と比べて大きな違いは、4日目の班別行動で、国際通りを散策しながらお土産を買い、昼食も班ごとに食べて、時間に集合するという点でした。国際通りには沖縄ならではのお菓子やお土産が所狭しと並べられ、とても魅力的で、品物を見て回るだけでもあっという間に時間が経ってしまいます。子どもたちは限られた時間の中で、昼食を食べている写真も撮らなければなりません。

修学旅行という日常とは異なった場所、友達と過ごす楽しい時間の中で、自分だけ少し遅れても、自分たちのグループが少し約束守れなくても大丈夫だろうと、つい気が緩んでしまうかもしれません。もちろん、教員は、子どもたちを信用しての計画でしたが、はたして、集合時間には、全員が余裕を持って集合できました。

宿泊場所や見学場所でも節度ある行動をとりながら楽しむことができていました。

このようなことができたのは、偶然なのではなく、これまでの校外学習や、普段の学校生活の様子を見ていて、決めたことでした。子どもたちは見事に期待に応え、『自律心』が育っていることを(ノ)

5 月 行 事 予 定

9日 創立100周年記念法要 4～6年生参加 1～3年生自宅学習	18日 宗祖降誕会
11日 1年生を迎える会	19日 1年生交通安全教室 クラブ
12日 クラブ	20日 運動会特別日課開始
13日 学校見学会(受験希望者対象) 高等部学習ボランティア	29日 運動会予行準備(5時間授業) 1～3年生は5限で下校
14日 健康診断	30日 創立100周年記念保護者 対象記念講演会
16日 創立100周年記念祝賀会・鼓笛隊出演 1～4年生自宅学習	英検1次 児童自宅学習

2026年5月号 5月14日発行

実感できた行事となりました。そして、最高学年としての自信と誇りをもつことができた素晴らしい修学旅行となりました。

保護者の皆様のご理解、ご協力ありがとうございました。

中・高等部との連携

～「小学部児童放課後学習サポートボランティア」始まる～

今年度より新たな試みとして、高等部2年生の生徒が「サポートボランティア(学習補助)」として、4・5年生の放課後学習に加わることとなりました。

この活動を実施することで、小学部児童にとっては、身近な先輩との交流の機会となり、中学部・高等部の生徒を身近に感じ、将来の姿として意識できるようになることを願っています。また、学院の一体感の醸成につながると考えています。

1学期の実施予定は4回(5年生は3回)です。

1年生を迎える会

5月11日(月)1年生を迎える会を行いました。1年生は、6年生と一緒に入ってきたときには少し緊張した表情でしたが、次第に笑顔が増え、児童会が考えたクイズではみな楽しそうに参加していました。学校にまつわるクイズで、改めて学校の歴史が分かりました。

お知らせ

以前、メールでお伝えしているところですが、制服にキュロットスカートが加わっています。サイズ替えの際に、ご検討ください。

学院創立100周年記念保護者様対象記念講演会

日時:5月30日(土)11:00～12:30

場所:国府台女子学院 寿光殿

講師:竹内 薫 氏(サイエンス作家)

演題:「AIと共存する未来～今存在しない職業に就く子ども達に必要な教育とは～」

☆多くの保護者の皆様のご参加をお待ちしています。

今月の目標

「きまりを守って、落ち着いた生活をしよう。」

市川市菅野3-24-1

Tel 047-322-5644

Fax 047-322-5655

<https://www.konodai-gs.ac.jp/>



『正義とは』

「正しく立派な人になりなさい」と、私達は幼い時から教わってきました。しかし、浄土真宗を開いた親鸞聖人とその師匠である法然上人は、あえて逆の言葉を残されました。それは「愚者(ぐしゃ)になりて往生す(自分をおろかな者と自覚する人こそが、仏さまの世界へ救われていく)」という教えです。なぜ、おろか者にならなければならないのでしょうか。そこには、私達が陥りやすい「正義」の怖さが隠れています。

今、世界では悲惨な争いが絶えません。ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエル軍とガザ地区の戦闘、そして大国による軍事行動など、ニュースに映る指導者たちは、自らの行いを疑わず、正義を実践していると主張し、自身の正しさに確信を持っているように見えます。しかし、ここに正義の危うさを感じてしまいます。「自分は100%正しい」と信じ切った時、人間は傲慢で冷酷になります。自分の正義に反する者を一方的に「悪」と決めつけ、攻撃することに痛みを感じなくなってしまうのです。歴史を振り返れば、多くの悲劇は、こうした「暴走する正義」によって引き起こされてきました。指導者が自らの正当性を声高に主張し、敵を「絶対的な悪」と断じた瞬間、その正義は「不正義」へと転落するといえます。自分の正義が唯一の正解だと思い込む心こそが、実は最も真実から遠いところにあります。もちろん、お互いが非を認めれば争いは解決しますが、現実の争いは、強大な軍事力を持つ者が「正義」を振りかざし、抵抗できない人々の命を一方的に踏みしめています。

ひとたび指導者が「自分達の正義こそが唯一の真実だ」と思い込んでしまった時、その言葉は対話の手段ではなくなり、他者を排除する武器へと変わってしまいます。その思い上がりこそが、戦争で失われる命を、まるで「必要な犠牲」であるかのように正当化してしまっているのです。

法然上人が説かれた「愚者になりて」という生き方は、単に努力をやめて犯罪を犯したり、臆病になることではありません。自分の弱さや不完全さを認め、自らの正義を疑う「勇気」を持つことです。自分の弱さを知る人は、相手の痛み想像力を働かせることができます。それは「自分は正しい」と信じ込んでいる間は、決して見えてこない世界なのです。自らの「愚かさ」と「弱さ」を受け入れられた時、私達は初めて、振り上げた拳を下ろし、他者に寄り添う一歩を踏み出すことができるのではないのでしょうか。「自分もまた、間違いを犯す一人の人間(凡夫)にすぎない」という法然上人や親鸞聖人の謙虚な教えを、今、この世界を生きるための道標として大切に受け止めていきたいと念じています。